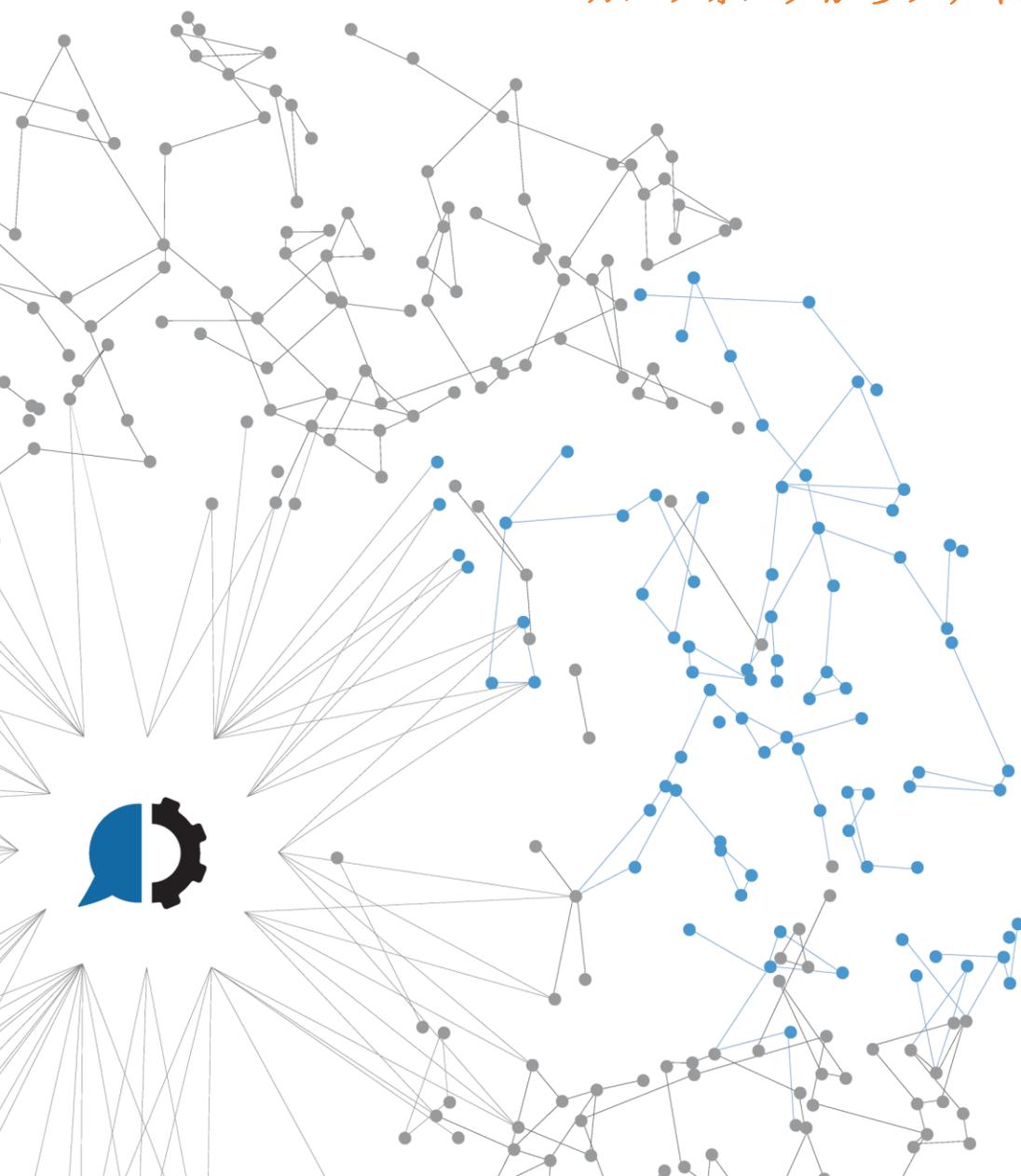




GOOGLE DRIVE BOT

ローカルフォルダからファイルをアップロード





内容

概要	3
前提条件	4
AUTOMATE タスクをインポートする方法	6
GOOGLE DRIVE – ローカルフォルダからファイルをアップロード を実行する方法	7
付録 A – トラブルシューティング	9



概要

この How to ガイドでは、*Google Drive - ローカルフォルダからファイルをアップロード*をご紹介します。繰り返し行われる手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに、AutoMate に任せて、ロボットプロセスオートメーションで IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate は、手動で行っていた作業を代行することで、繰り返し作業を大幅に減らし、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

Google Drive - ローカルフォルダからファイルをアップロードは、**Google Drive API** をベースにしています。“**files**” HTTP PATCH メソッドを実行することで、指定したローカルドライブフォルダからファイルをアップロードします。アップロード元のローカルドライブフォルダ名と、ファイルの保存先である Google ドライブフォルダ名を設定することができるようになります。

また、保存先フォルダにファイルが既に存在する場合、そのファイルを置き換えるオプションも設定可能です。デフォルトでは、このオプションは無効になっており、Google Drive の保存先フォルダに既に存在するファイルはアップロードされません。

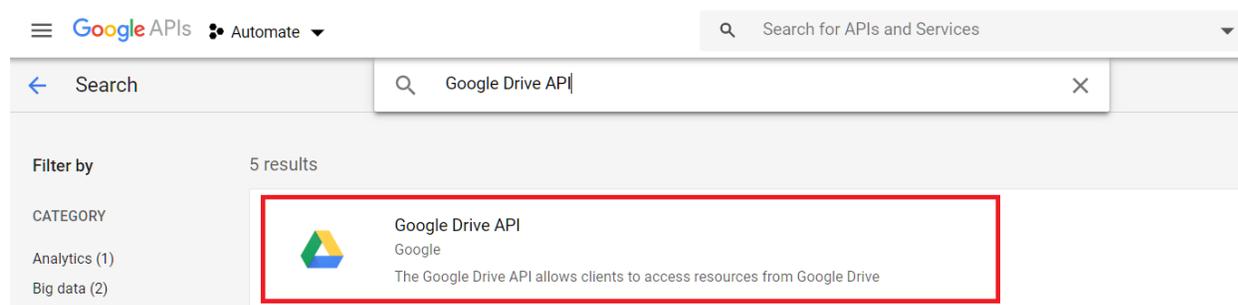
このボットは、ユーザー名とパスワードの使用を避けるため、API トークンによる認証方式を採用しています。トークンは、使用するアカウントと Authorization Code 生成時に使用するスコープに関連付けられます。詳細については、「[前提条件](#)」と「[Google Drive Bot - ローカルフォルダからファイルをアップロードを実行する方法](#)」のセクションをよく確認してください。

また、**GOOGLE - トークンの生成と更新** bot も用意されており、この bot が日常的に機能するように、最初のトークン作成と更新を簡単に行えるようになっています。デフォルトでは、トークンは1時間後に失効します。このボットは OAuth Authorization Code Workflow をベースにしています。

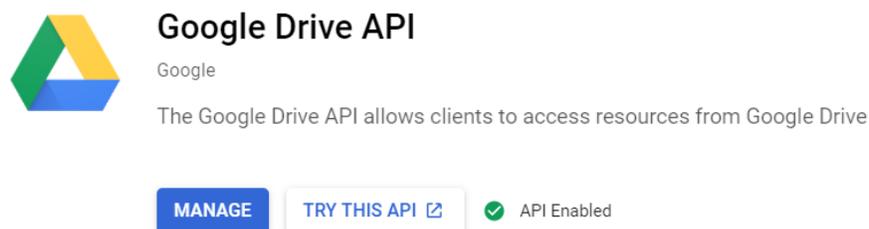


前提条件

- **AutoMate:** Google Drive Bot が動作するためには、AutoMate ソフトウェアが必要です。最低限サポートされているバージョンは以下の通りです。
 - [AutoMate Ultimate 11.2](#)
 - [AutoMate Plus 11.2](#)
 - [AutoMate Desktop 11.2](#)
- **AutoMate Markup Language ファイル (.AML):** Google Drive Bot タスクのステップを含む、AutoMate で使用される主要なファイルタイプです。
- **Google Drive API:** 必要となる最小要件は、以下の通りです。
 - **Google アカウントで Google Drive API を有効化する:** Google Drive に API で接続できるようにするためには、デベロッパーコンソールのアカウントで有効にする必要があります。これを行うには、[リンク](#)からコンソールに入ります。初めてログインすると、プロジェクトを作成するように指示されます。次の画像では、プロジェクト名を“Automate”としたことがわかります。左側の API [ライブラリ](#)メニューから、Google Drive API を探します。



有効にすると、次のように表示されます。





- **Google Drive API に接続するためのトークンを作成する:** Google Drive API に接続するためのトークンを作成する API を有効にしたら、Google が提供するこの [リンク](#) 内の手順に従って、次のスコープを持つ **OAuth 2.0 Token** を取得し、Google Drive データを読み取れるようにします。

“<https://www.googleapis.com/auth/drive>”

“<https://www.googleapis.com/auth/drive.readonly>”

また、OAuth2.0 Authorization Code Workflow に基づいた「**GOOGLE - トークンの生成と更新**」も [BotStore](#) で提供していますので、合わせてご利用ください。このボットは、トークンとトークン-リフレッシュを維持し、日常的にこのボットを実行することができる簡単な方法を提供します。

- **Google Drive API バージョン:** このボットは、Google Drive API v3.を使用して作成されています。

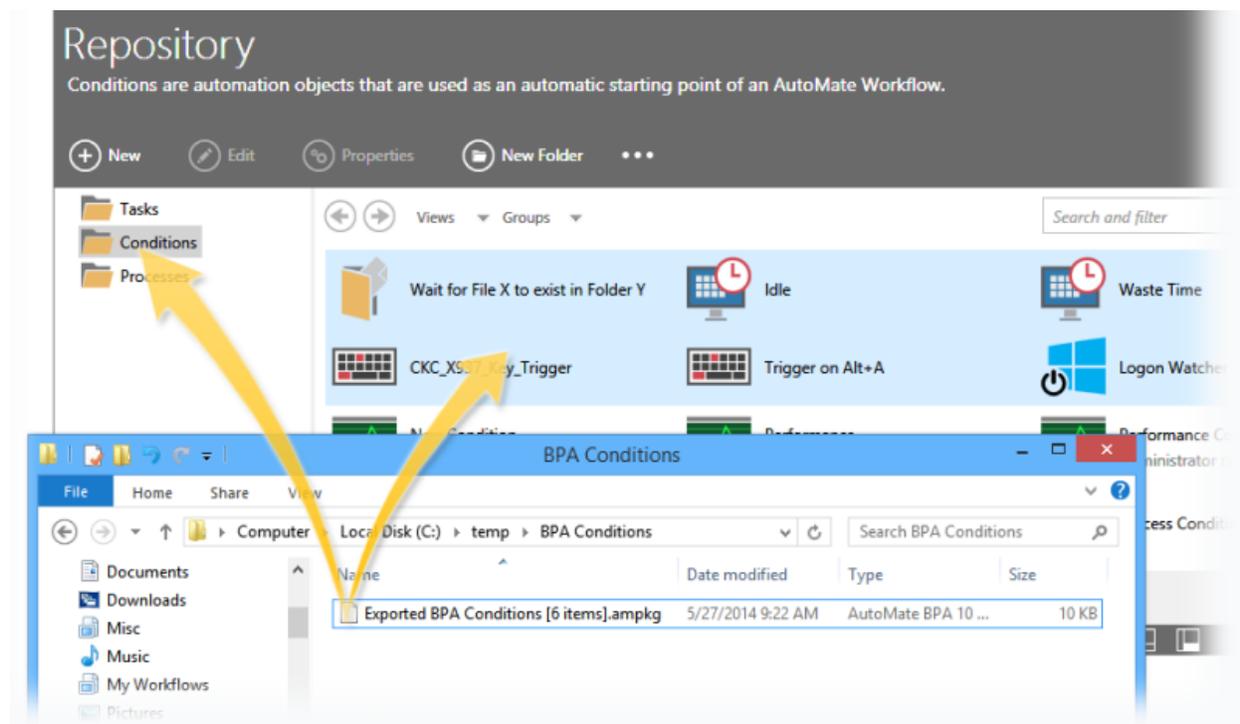


AUTOMATE タスクをインポートする方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでリポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソール(SMC)から、[リポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。



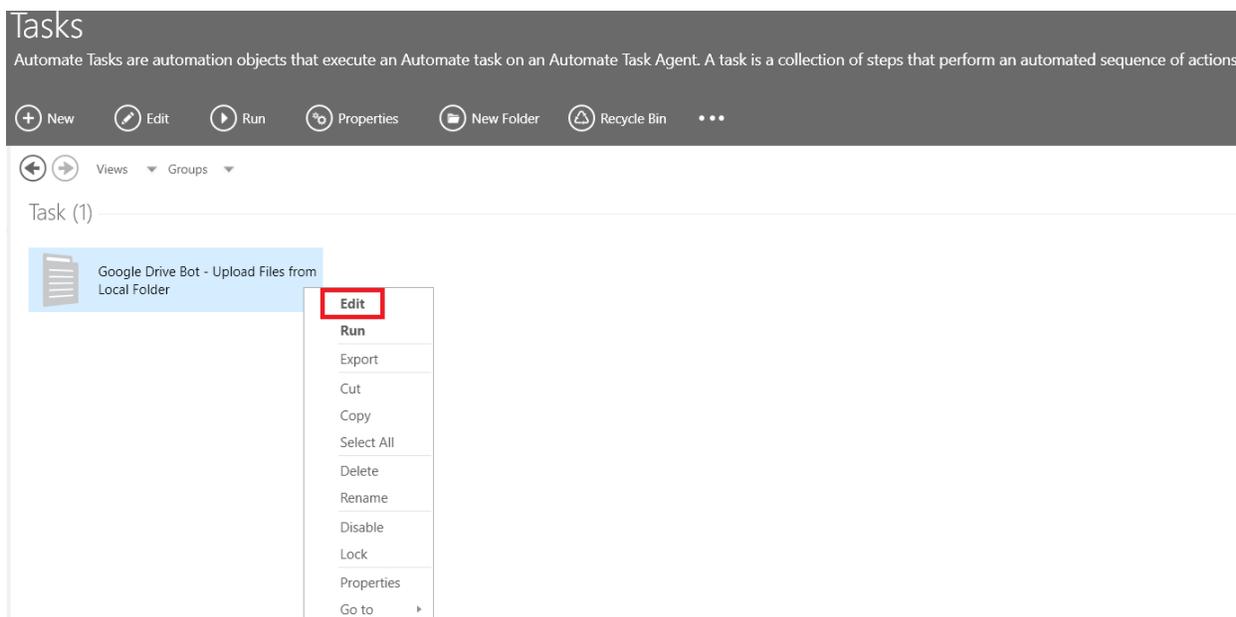


GOOGLE DRIVE – ローカルフォルダからファイルをアップロード を実行する方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、編集を選択して編集します。



ステップ 2 からは、希望する出力に応じて次の変数を編集してください。

- **var_LocalFolderPath**: ファイルをアップロードするフォルダのパスを設定します。
例: D:\Automate\FilesToUpload
- **var_DestinationDriveFolder**: Google Drive にアップロードするファイルの保存先フォルダ名を設定します。
- **var_ReplaceFileIfExists**: 保存先でファイルを置き換えるか? 設定可能な値 True または False。
False の場合、ファイルはアップロードされず、既存のものと置き換わります。
- **var_Token**: 接続用トークン (String) またはトークン情報のあるファイルのパスを設定します。トークンは、接続/要求するアカウントに関連付けられることを忘れないでください。トークンの値そのものか、トークンの情報が入った.txt ファイルがあるパスを設定することができます。



例: **C:\Automate\GoogleToken.txt**

.txt ファイルを使用する場合、トークンは次のような形式/構造でなければなりません。

access_token:TokenString

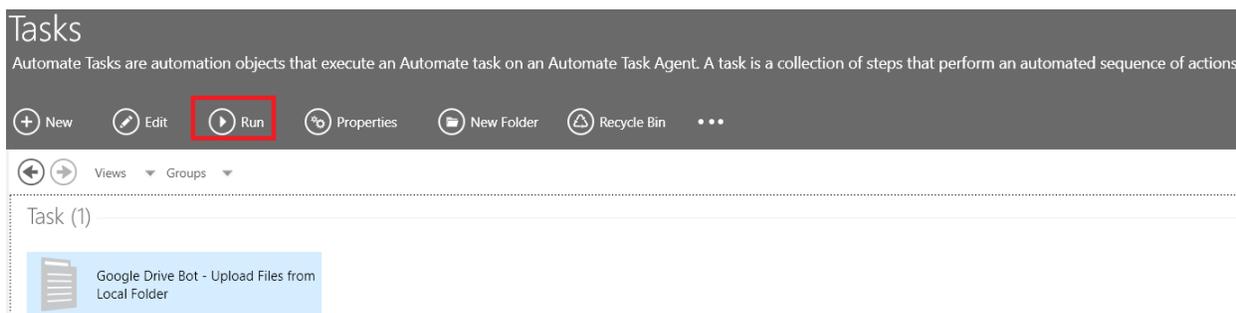
ファイルの例:

```
*GoogleToken.txt - Notepad
File Edit Format View Help
access_token:ya29.a0AfH6SMB7Tz6BVRHJdismCT84lwLerlw
refresh_token:1//0hKeHgPAAzz5bcgYIARAAGBESNwF-L9Ir0
```

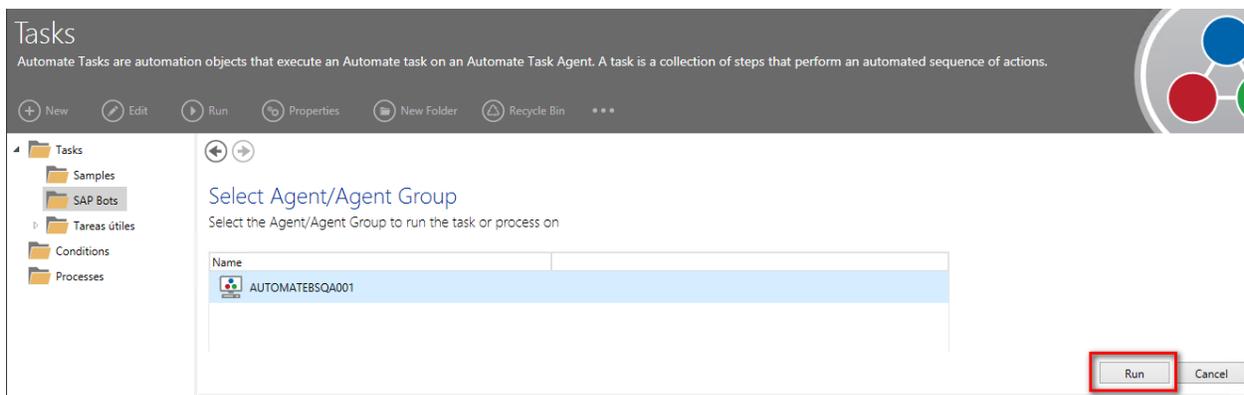
refresh_token の値がありますが、これは「Google Bot - トークンの生成と更新」で管理されていることに注意してください。

タスクを保存して閉じます。

タスクを選択し実行をクリックします。



Agent を選択し、再度「実行」をクリックします。





付録A-トラブルシューティング

- ログ: ボットの各反復は、トラブルシューティングのためにログファイルを作成します。ログファイルは、C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>の下にあります。デフォルトでは、タスク名は「*Google Drive Bot - Upload Files from Local Folder*」です。



About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and AutoMate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people